

令和3年小山町高校生議会会議録

令和3年11月13日

召集の場所 小山町役場議場

開 会 午後1時00分 宣告

出席議員 1番 金子 光希君 2番 横畠ヒトミ君

3番 松元 愛菜君 4番 内尾 陽向君

6番 植松 駿君 7番 永井 梨萌君

8番 杉山 華君 9番 杉山 楓君

10番 澤岡汐里香君

欠席議員 5番 立道 怜奈君

説明のために出席した者

町 長 池谷 晴一君 副 町 長 大森 康弘君

教 育 長 高橋 正彦君 理 事 増井 重広君

企画総務部長 小野 一彦君 住民福祉部長 渡邊 啓貢君

経済産業部長 高村 良文君 教 育 次 長 長田 忠典君

総 務 課 長 池田 馨君 総務課課長補佐 渡邊 徹君

職務のために出席した者

議会事務局長 後藤 喜昭君 議会事務局書記 池谷 孝幸君

閉 会 午後2時00分

(議 事 日 程)

開会の宣告

日程第1 議席の指定

日程第2 会期の決定

日程第3 一般質問

1番 金子 光希君

2番 横畠ヒトミ君

情報発信について

3番 松元 愛菜君

4番 内尾 陽向君

小山町の認知度向上について

6番 植松 駿君

7番 永井 梨萌君

小山町の福祉活動について

8番 杉山 華君

9番 杉山 楓君

小山町の教育の質の向上について

閉会の宣告

## 議

## 事

午後1時00分 開会

○議長（澤岡汐里香君） 本日はよろしく申し上げます。

ここで報告します。5番立道怜奈君は、本日の会議を欠席する旨、届けが提出されていますのでご報告します。また、新型コロナウイルス感染防止のため、議場内ではマスクを着用することとします。

また、小山町議会傍聴規則第8条の規定により、本日は傍聴席でのビデオ、カメラの撮影、及び報道関係者等による議場での記録用写真の撮影を議長において許可しておりますので、併せて報告します。

ただいま出席議員数は9人です。

出席議員が定足数に達しておりますので、小山町高校生議会は成立しました。

ただいまから令和3年、小山町高校生議会を開会します。

直ちに本日の会議を開きます。

本日の議事日程は、あらかじめ配付しましたとおりですから、朗読を省略します。

---

日程第1 議席の指定

○議長（澤岡汐里香君） 日程第1 議席の指定を行います。

議席は、小山町議会会議規則第4条第1項の規定を準用し、議長が指定します。

議席は、ただいま着席の議席とします。

---

日程第2 会期の決定

○議長（澤岡汐里香君） 日程第2 会期の決定を議題とします。

お諮りします。本議会の会期は、本日1日としたいと思います。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（澤岡汐里香君） 異議なしと認めます。したがって、会期は、11月13日、1日と決定しました。

---

日程第3 一般質問

○議長（澤岡汐里香君） 日程第3 これより一般質問を行います。

なお、今回の質問は、グループで考えたものです。

質問者は登壇し、質問願います。

通告順により、順次発言を許します。

初めに、1番 金子 光希君。

○1番（金子光希君） 2人を代表して情報発信について質問します。

私たちは小山町にSNSの活動不足という課題があると考えます。

その課題を解決するために、情報発信の向上について3点の質問をさせていただきます。

1つ目は、小山町公式Instagram作成による活性化と、アカウントを小山高生が運営することについてです。現在、Instagramを利用している人の多くが10代から20代であることから、小山高生は利用者のニーズに応えることが可能だと思います。

例えば、アカウントで小山高美術部が描いた小山四コマ漫画、絵、小山高生の日常、老人ホームの様子を発信するのが良いと思います。さらに、小山町で人気観光スポットの写真やスイーツなどに#デートスポットや#カフェなどのハッシュタグをつけて投稿することで多くの人の目に触れると思います。そうすると、お金をかけずに知名度が上がることで観光客が増えるというメリットがあると考えます。

2つ目は、小山町公式LINEの認知度向上についてです。

今、小山町の公式LINEの認知度は、あまり高くないと思われます。そこで、町の方々に知って貰うために、まず、小山高美術部に公式LINEをアピールするポスターを作成してもらいます。そして、そのポスターを小山町内の駅、小・中学校に掲示してもらうことで多くの人の目に触れると思います。

また、過去に小山高美術部が作成したLINEスタンプの宣伝をすることで収益が見込めると思います。

さらに、町内で行われる行事等の宣伝をすることで参加者が増えると思います。LINEはInstagramよりも利用者が多く、中年層への情報発信が可能です。このことを利用して、小山町のおすすめスポットやカフェなどの情報を発信すれば、さらに多くの利益が見込めると思います。

3つ目は、ゆるキャラ（金太郎）のデザイン変更についてです。

今のゆるキャラは親しみやすさに欠けていると考えます。そこで、新たなデザインをInstagramや公式LINEでの募集に加え、小山町内の小・中学生からも募集するのが良いと思います。SNSで募集することによって幅広い範囲から応募を募ることができます。そして、応募作品の中から何個かに絞り、幼・小・中の子供たちに投票してもらうことで子供たちが好きなデザインを目指すことができると思います。

また、新しいデザインのゆるキャラに運動会や祭り、ゆるキャラグランプリに参加してもらい、知名度を上げるべきだと思います。知名度が上がれば、グッズ化などで収益が見込めると考えます。

以上の3点について、小山町の考えをお聞かせください。

以上です。

○議長（澤岡汐里香君） 答弁を求めます。

○企画総務部長（小野一彦君） 金子議員、横畠議員のご質問にお答えいたします。

初めに、小山町公式Instagram作成による活性化と、アカウントを小山高生が運営することについてであります。

町では、公認のInstagramマーの募集を行い、選考した1名のInstagramマーの方に、Instagramから本町の観光スポットなどを広く発信していただいております。フォロワー数は約2,000人で、多くの方へ発信されていると感じております。この取組みは継続的に実施してまいりたいと考えておりますので、今後も観光スポットの写真掲載、イベント告知なども含め、進めてまいります。

金子議員ご提案のInstagramは無料でアカウントを開設することができます。小山高校の活動として、アカウントを高校生が運営することについては、とてもありがたい申し出であり、金子議員のおっしゃる通り、利用者の多くが若者であるInstagramに対して、若者目線の投稿をすることで、利用者のニーズをとらえ、誘客や町内活性化のきっかけをつくる投稿が生まれると考えています。

本年10月12日には、本町と小山高校との間で、連携協定を締結しておりますことから、前向きに検討してまいりたいと考えております。

次に、小山町公式LINEの認知度向上についてであります。

本年3月から開始した、町の公式LINEの登録者数は現在、約2,200人で、順調に登録者数が伸びていると考えております。

また、LINE登録者を増やす為に、広報おやま3月号、6月号でLINE登録について紹介したり、新型コロナウイルス感染症のワクチン接種会場においては、2回目接種の予約日時記載用紙の裏面にLINEの登録について記載し、町民の皆様にも広く周知いたしました。最近では、シニア世代向けのSNS出前講座に出向き、LINE登録のご案内をしております。

金子議員ご提案の通り、小山高美術部に公式LINEをアピールするポスターの作成を依頼し、町内の駅、小・中学校に展示してもらうことで多くの方の目に触れると考えております。過去に、小山高美術部が作成したLINEスタンプについても、宣伝することが必要であると考えておりますので、実施に向けご協力よろしくお願いいたします。

次に、ゆるキャラ（金太郎）のデザイン変更についてであります。

金太郎は本町が誕生の地として、町民に愛され、その姿、かたちは現代まで受け継がれてきました。町では本町の英雄である金太郎を、より広く町内外にアピールする為、本年2月に小山町マスコットキャラクター金太郎の使用に関する要綱を定め、受け継がれたイメージを親しみやすいデザインでアピールしています。

また、本年度は、20パターンの金太郎デザインを追加し、より使いやすいマスコットキャラクター金太郎にいたします。現在、この事業は、始まったばかりであり、今後、広報紙等に掲載しアピールしていきたいと考えております。

金子議員ご提案のゆるキャラ（金太郎）の新たなデザインをInstagramや公式LINE、

町内の小・中学校から募集することにつきましては、現在マスコットキャラクター金太郎をアピールしている最中でもあり、現時点では、考えておりませんので、何卒ご了承賜りますようお願いいたします。

以上であります。

○議長（澤岡汐里香君） 再質問はありませんか。2番 横島ヒトミ君。

○2番（横島ヒトミ君） 再質問をします。

デザインを20パターン追加しアピールしていくとありますが、どのような場面で金太郎を利用していく予定でしょうか。

以上です。

○議長（澤岡汐里香君） 答弁を求めます。

○企画総務部長（小野一彦君） 横島議員の再質問にお答えいたします。

マスコットキャラクター金太郎は、町内外で広く使用して頂くことを目的としております。具体的には、町内の学校等が教育の目的で使用したり、新聞、テレビ及び雑誌等報道機関が、報道、または広報の目的で使用する等であります。最近では、町内で事業展開をしている不動産会社が、ビジネス用チャット、WEB会議機能において個人アイコンとして使用しております。

もちろん、すでに役場においては通知文などの案内やイベントチラシ作成時に使用しております。デザインのパターンですが、自転車に乗る金太郎や、電話をする金太郎、おじぎをする金太郎、新型コロナウイルス感染症防止対策関連としまして、マスク姿の金太郎、手を洗う金太郎、窓を開け換気する金太郎など、デザイン20パターンを追加し、より多くの場面で使用できるデザイン素材として、活用の幅を広げていきたいと考えております。

以上であります。

○議長（澤岡汐里香君） 再質問はありませんか。

○1番（金子光希君） 以上で私達の一般質問を終了します。ありがとうございました。

○議長（澤岡汐里香君） 次に、3番 松元 愛菜君。

○3番（松元愛菜君） 2人を代表して、町の認知度の向上について質問します。

私たちは、小山町に町の認知度が低いという課題があると考えます。

その課題を解決するために、三つ、質問させていただきます。

一つ目は、駅に手作りのものを置くことについてです。小山町には今、特産物がいくつかありますが、知らないと言う方が多いと思います。

そこで、小山高校の文化部で商品を作ったり、農家の方々が育てた野菜や特産物を使用した料理を売ったりするコーナーを作ればよいのではないかと考えます。例えば、水掛け菜を使ったお惣菜や、金太郎のプリントがされたお菓子などを置いたり、食べ物だけでなく、染めものを置いたりすることで、特産物を色々な人に知ってもらえると思います。そうすることで、小山町の食への認知度が上がると考えます。

二つ目は、自然豊かで綺麗な土地をアピールすることについてです。小山町には、美しい風景がたくさんあります。そのため、小山高校の家庭部や婦人会の方々に季節に合った花を植えたり、小山高校の美術部でトンネルなどに絵を描いたりして、小山町が色鮮やかになることで、景観が良くなり、綺麗な土地をアピールできると思います。そうすることで、小山町の特徴的な土地の魅力への認知度が上がると考えます。

三つ目は、誰でも訪れることのできる写真スタジオを作ることについてです。先ほど、二つ目に挙げました美しい風景はたくさんありますが、風景写真以外を目的としている方やSNSに投稿する若者が来るには、撮影場所が少ないと思われます。なので、小山高校がデザインして写真を撮る方や若者が来やすい町にして、SNSにアップすることにより、写真を撮る方や、若者の小山町への関心が高まります。そうすることで、小山町の写真を撮る方や若者への認知度が上がると考えます。

以上の三つに加え、小山高校の写真部が写真を撮ってSNSに載せたり、サービスエリア、道の駅、小山町内の駅に置いたりすることで、さらに町内外の方々の小山町への認知度を上げることも可能だと思います。これらを実施することにより、小山町の町の認知度向上につながると思います。

このことについて町はどのようにお考えでしょうか。

以上です。

○議長（澤岡汐里香君） 答弁を求めます。

○経済産業部長（高村良文君） 松元議員、内尾議員のご質問にお答えいたします。

初めに、一つ目の駅に手作りのものを置き、町の認知度向上を図ることについてでございます。

水と緑に恵まれた本町における特産物につきましては、議員ご存じのとおり水掛菜をはじめ、御殿場コシヒカリやわさびなどがございます。また、金太郎からの贈物として、町の商工会から認定された町内の優良推奨品も多くございます。これら特産物や、特産物を加工した商品につきましては、現在、町内にございます2つの道の駅等で販売をしており、人気の商品となっているところでございます。また、駿河小山駅前交流センターにおいても販売を行っており、少しずつ品物を増やしてきているところであります。

一方、足柄駅前交流センターにつきましては、無人であるため商品を販売することはできませんが、展示スペースを利用いたしまして、特産物紹介コーナーを設置することなど、情報発信は行うことができます。

ご提案がございました小山高校との連携による新たな特産物の検討につきましては、更なる町の認知度向上を推進することができますので、お互い協力体制を築き、小山町を盛り上げていただきたく、ご協力をお願いいたします。

私からは以上でございます。

○議長（澤岡汐里香君） 答弁を求めます。

○企画総務部長（小野一彦君） 次に、自然豊かで綺麗な土地をアピールすることについてであります。

町には小山町花の会があり、主に8団体、124人の皆様が、各地域で季節に合った花を植え色鮮やかで綺麗な景観を作っております。

松元議員もご承知だと思いますが、本年7月～9月の東京オリンピック・パラリンピックの開催に合わせ、小山町花の会、会員様にご協力いただき、北郷の棚頭地区コース沿道2,020㎡に色とりどりのマリーゴールドを植栽し、オリンピック・パラリンピックを盛り上げました。

本年度も小山高校では、静岡県グリーンバンクを活用し、緑のカーテンを作成して地球温暖化防止に努められていると思います。小山高校の家庭部の皆様が小山高校周辺に、季節に合わせた花を植えて頂ければ、町の特徴的な土地の魅力への認知度向上につながると考えております。

松元議員ご提案の、トンネルなどに絵を描き、綺麗な土地をアピールすることにつきましては、本町においては適当な場所を探すことは困難ではないかと考えております。描く絵の種類、周辺の景観に与える影響や作業中の安全確保、その後の維持管理等の問題から課題が多いのではないかと考えております。一つの提案として、手始めに安全に作業することができる小山高校の校舎壁面に絵を描くことはいかがでしょうか。

次に、誰でも訪れることができる写真スタジオを作ることについてであります。町は平成30年度末に公認のインスタグラマーの募集行い、インスタグラムから本町の観光スポットなどを広く発信していただいております。現在のフォロワー数は約2,000人で、多くの方へ発信されていると感じております。この取組みは継続的に実施してまいりたいと考えておりますので、今後も観光スポットの写真掲載、イベント告知なども含め進めてまいります。

本年10月に小山高校と本町が、連携協定を締結したことから、小山高校写真部の皆様が、写真を撮りSNSに載せたり、小山、足柄駅前交流センターや、総合文化会館、道の駅に写真を掲載することにより、さらに町内外の方々の本町への認知度が上がることが期待できると考えております。

松元議員のご提案で誰でも訪れることができる写真スタジオを作ることにつきましては、利用者のニーズ、設置場所、設置費用、維持管理方法などから町営の公共写真スタジオを設置することは難しいと考えております。

松元議員がおっしゃる通り町には美しい風景がたくさんあることから、これからも綺麗な景色や自然の風景などを被写体にして頂きたいと考えております。

以上であります。

○議長（澤岡汐里香君） 再質問はありますか。4番 内尾 陽向君。

○5番（内尾陽向君） 再質問をします。

答弁の中で、町では公認のインスタグラマーがいらっしゃるのとありました。御殿場市のように小山町単体として、公式インスタグラムを開設するのはどうでしょうか。

以上です。

○議長（澤岡汐里香君） 答弁を求めます。

○企画総務部長（小野一彦君） 内尾議員の再質問にお答えいたします。

公認インスタグラマーの応募条件は、Instagramのアカウントを持ち、応募時点でフォロワーが1,500人以上いる人、小山町もしくは近隣市町の在住である人、小山町を盛り上げたいという熱い思いのある人の全てを満たす方としております。

本町が新たに公式Instagramを作るよりも、既にフォロワー数が多数いる、インスタグラマーのノウハウを活用し、小山町の魅力や情報を町外に効率的かつ効果的にPR、発信して行きたいと考えております。現時点では、町単体でInstagramを作ることは考えておりませんが、今後その必要性等研究しまして、考えていきたいと考えております。

以上であります。

○議長（澤岡汐里香君） 再質問はありますか。

○3番（松元愛菜君） 以上をもちまして、私達の一般質問を終了します。ありがとうございました。

○議長（澤岡汐里香君） 次に、6番 植松 駿君。

○6番（植松 駿君） 2人を代表して、小山町の福祉について質問させていただきます。

小山町は、比較的若者より高齢者のほうが多いと考えています。そんな中、地域の方々や高齢者との関わりが少ないと考えています。また、赤い羽根募金などの福祉活動をしているにも関わらず活動の認知度が低いと考えています。

そこで、次の2点について質問します。

一つ目は、地域との関わりを深めるために地域の方々と協力して農業体験をすることについてです。

小山町には、畑や田んぼが多くあります。そこで、その畑などを活用し小山高生と一緒に農業活動をします。畑などをうまく活用していくことに加えて、地域の方々との関係を深めていくことが出来ると考えています。また、農業体験を通して作った野菜で小山高生がオリジナルの料理を考え、出来上がった料理を小山町のホームページなどのSNSに投稿することで、町での活動や知名度が上がっていくと考えました。町の見解はいかがでしょうか。

二つ目は、リサイクル活動や募金活動を行うことについてです。

今現在、小山町ではリサイクル活動や、募金活動が行われています。ですが、小山町でユニセフや赤い羽根募金の活動が行われていることに対しての、認知度が低い状況だと考えています。そこで、小山高生がポスターを作成し道の駅など人の多く集まる場所に掲示することで、地域の方々や高校生により知ってもらうことができ、福祉活動が活性化すると考えます。また、小山高校ではリサイクル活動が十分に行えていない状況だと考えています。そこで、ユニセフや赤い羽根募金、牛乳パックやアルミ缶回収などを小山高校で行う機会を設けるのはどうでしょうか。こ

の活動で、小山高生の環境に対する意識や、町をきれいに保とうとする意識が、高まると考えました。

このことについて町はどのようにお考えでしょうか。

以上です。

○議長（澤岡汐里香君） 答弁を求めます。

○経済産業部長（高村良文君） 植松議員、永井議員のご質問についてお答えいたします。

はじめに、地域との関りを深めるために地域の方々と協力して農業体験を行うことについてであります。町内では全国的にも問題となっている高齢化について同じように進んでおり、高齢者の孤立や孤独を防ぐためにも、社会参加活動など、人と人が関わりあう機会が必要とされております。

ご提案いただいた、小山高校生の皆様が地域の皆様と協力し農業体験を行うことは、農地の有効利用、若く元気のある皆様と共同作業を通じた地域の活性化にもつながることから、有効な福祉活動の取り組みの一つと考えられます。現在、小山高校生の皆様には、足柄ふれあい農園の1画を利用していただいております。収穫まで、水やりや、肥料まき、除草といった継続的な農作業を体験されている方もおられます。

このような経験を生かし、地域の方々と協力して農業体験を行っていただきたいと考えております。農業体験を通して栽培された野菜等で小山高校生がオリジナル料理を考え、出来上がった料理を町のホームページなどで発信することに関しましては、新たな福祉活動を対外的に紹介する機会として有効と考えられます。料理を考えるにあたっては、共同作業で収穫された野菜だけではなく、先ほどの町の認知度向上についてで答弁いたしました、町の特産物等も加えていただけるとさらに町の紹介につながると考えられますので、実施の可能性について検討を進めてまいります。

私からは以上でございます。

○議長（澤岡汐里香君） 答弁を求めます。

○住民福祉部長（渡邊啓貢君） 次に、小山町の福祉活動についてのうち、リサイクル活動や募金活動を行うことについてをお答えします。

まず、募金活動についてですが、町では、小山町社会福祉協議会が主体となり実施しております。また、募金は、それぞれの目的や使い方を明確にして行っており、赤い羽根共同募金は、地域の助け合い活動など、地域福祉を推進するための大切な資金となる募金です。

令和2年度の赤い羽根共同募金は、戸別、法人、職域、学校募金等により、町内で6,027件の応募があり、募金総額は282万7,280円でした。そして、ボランティア団体や福祉団体の活動支援、福祉活動を広めていくための広報啓発活動などに活用させていただきました。

この募金活動は、小山高生の皆さんと地域福祉関係者が協力して、小山高校の校門前や足柄駅前などで、街頭募金を行うこともできます。

植松議員のご提案にありました小山高生によるポスターの作成、道の駅等への掲示、企画の段階から小山高生と一緒に取り組ませていただければ、より効果的な募金活動が行えると考えております。

また、社会福祉協議会では、一人暮らしの高齢者や、ひとり親世帯を支援する、歳末たすけあい募金も行っております。なお、ユニセフへの募金につきましては、ユニセフの公式ホームページ等で募集をしておりますが、町としても何らかのPRを検討していきたいと考えております。

次に、リサイクル活動についてであります。地球環境の課題として重要なものに、ごみの問題があります。町内から排出され処分される、ごみの量は膨大であり、地球環境への負荷を減らすには、循環型社会を実現することが重要となります。

このため町では、ごみの減量と資源の再利用を推進する取り組みとして、物を大切に使いゴミを減らすリデュース、使える物は繰り返し使うリユース、資源として再利用するリサイクルの3Rを進めております。

特に、リサイクルできる資源ごみの分別回収を進めておりますが、令和2年度に家庭から排出された可燃ごみを種類別に見てみると、紙類が約36%もありました。すべてがリサイクルできる紙類ではありませんが、リサイクルできる資源物が、まだまだ可燃ごみとして出されてしまっている現状がわかります。

さて、ご質問にありました、牛乳パックやアルミ缶の回収は、リサイクルされ、再生紙や再生のアルミ製品として生まれ変わります。小山高校をリサイクルの回収拠点としていただくことは、小山校生にとっても、たいへん有意義で環境学習の面からも、素晴らしい提案でありますので、ぜひ一緒に取り組んでいきたいと考えております。

以上であります。

○議長（澤岡汐里香君） 再質問ありませんか。7番 永井 梨萌君。

○7番（永井梨萌君） 再質問をします。

答弁の中で、リサイクルができる資源物が、まだまだ可燃ごみとして出されてしまっている現状があるとのことでした。小山高校でも総合文化部と協力してポスターの作成等を行いたいと考えます。その際に注意事項や呼びかける文言等で必要となることは有りますでしょうか。

以上です。

○議長（澤岡汐里香君） 答弁を求めます。

○住民福祉部長（渡邊啓貢君） 永井議員の再質問にお答えします。

小山高生によるポスターの作成等は、町が推進している3Rの意識の高揚が図られる素晴らしいことだと思います。また、ごみの減量化、再資源化の推進はSDGsの多くの課題と関わりがありますので、皆さんの身近なところから見つめ直していただければ、よりみんなの心に響く言葉が生まれてくると思います。

その際、注意事項や呼びかける文言等とのことですが、特に決まり等はありませんので、

高校生の感性で自由に3RやSDGsを掘り下げていただければ良いと考えます。

以上であります。

○議長（澤岡汐里香君） 再質問ありませんか。

○6番（植松 駿君） 以上を持ちまして私達の一般質問を終了します。ありがとうございました。

○議長（澤岡汐里香君） 次に、8番 杉山 華君。

○8番（杉山 華君） 2人を代表して、教育の質の向上について質問します。

小山町は自然に恵まれていて勉強に集中できる素晴らしい環境を持っています。そのため新しいことを導入し、実行していくことにより、より良い環境を作ることができると思います。そこで次の3点について質問します。

一つ目は、子供たちと地域の方の交流の場を作ることについてです。

具体的には、小山高校の文化部と協力し、勉強や裁縫、料理教室、読み聞かせ、お絵かき教室、茶道教室などを開きます。主に、小学校3年生から中学校3年生くらいの年齢までの子供の学習能力向上を図ることに加え、文化部の実力を発揮できる場を作ること考えています。

また、老人ホームに小中高生が行き、一緒に遊んだり高齢者の方の話を聞いたりする機会を設けてみてはどうでしょうか。この活動を行うことにより、地域の文化継承やいろいろな世代との交流、更に学生の知的教育にも繋がると考えています。

また、介護系の職場体験も兼ねることができ、学生の地元就職の幅なども広げられると考えられます。

二つ目は、小山高生が行う総合的な探求の時間で、小山町の動画を作成することです。

生徒会と小太郎君が中心となって、小山町の施設に突撃インタビューを行い、小山町や金太郎の歴史を紹介していきます。

例えば、小山町役場や道の駅で動画を撮って小山町の良いところを学生の目線からPRし、町外の人も含め小山町で取り組んでいることや社会事業などについて学べるようにします。また教育テレビのパロディ動画なども作成し、幼児や小山町に住みだての人に向けて、分かりやすい地域教育を行うべきだと考えます。動画で魅力を伝えることにより、学生の発信力の育成や小山町への関心度の向上へつながると考えています。なお、作成した動画は小山町の公式ユーチューブチャンネルに掲載し、多くの人が見ることができるようにしたいと考えています。

三つ目は、小山町に質問箱を設置することです。

小中学生を中心とした幅広い世代の方から質問を募集し、小山高生が高校生なりの目線でできる限り回答していきたいと思えます。質問箱により、子供の好奇心育成と高校生の頭の柔軟性を鍛え、小山町に関する質問を多く取り上げることで学生や地域の方の知育も図ることができそうです。

質問箱は、文化会館、図書館、こども園や学校に設置し、SNS上でも募集します。SNSで募集したものはそのままSNS上で回答し、各施設で募集した質問箱は各所に解答を掲示します。

また、回答の頻度は月に一回程度行います。これらを実現することにより、小山町全体の教育の質を向上させることができると考えています。

以上の3点において、町はどのようにお考えでしょうか。

以上です。

○議長（澤岡汐里香君） 答弁を求めます。

○教育次長（長田忠典君） 杉山華議員、杉山楓議員にお答えいたします。

私からは、小山町の教育の質の向上についての内、子供たちと地域の方の交流の場を作ることについてをお答えいたします。

はじめに、小山高校の文化部と協力して、小学3年生から中学3年生までを対象に、勉強や裁縫、料理、茶道などの教室を開いて、子ども達の学力向上を図ることについてであります。

小山高校生徒から、積極的な提案をいただき、大変感心いたしました。御提案いただいた教室の開催は、小中学生にとって身近に感じるお兄さん、お姉さんである高校生から教えてもらい、学校や塾などと違った環境で学べる機会となります。

また、高校生にとっても、人に教えることの難しさを経験でき、それぞれが成長できる良い提案であると思います。現在本町では、5つ全ての小学校において放課後子ども教室を実施しております。これは、放課後に、地域の子供達を地域で育て、体験、学びができる居場所づくりとして行っているものであります。具体的には、週2回程度、希望する児童を対象に、漢字検定や算数検定の学習や、須走小学校では将棋や運動、英語教室を行っています。

また、町内3つの全ての中学校においては、役場及び支所や地域の会議室で放課後学習室を実施しています。これは、基礎学力の向上などを目的に、中学2・3年生の希望する生徒を対象に、国語、数学、理科、社会、英語の5科目の内、3科目までを選択でき、週1回、個人ごとの学習状況に合わせて、外部の講師が個別指導してくれるものであります。

小山高生による教室についての提案であります。まずは、小学校で行っている放課後子ども教室の中で実施に向けて準備をしていけたら良いと考えております。年間を通しての実施になりますので、小山高生が行える日程やカリキュラムなど、よく相談をして検討していきたいと考えております。

次に、老人ホームに小中高生が一緒に行き遊んだり、高齢者の話を聞く機会を設けることについてであります。最近では、おじいさんやおばあさんと一緒に暮らしている三世代家族は、直近で公開されている平成27年の国勢調査によりますと、町内で941世帯、割合で言いますと14.8パーセントと非常に少なくなっております。

年配の方の知恵や経験を聞く会も非常に少なくなっていることから、このような機会を設けることは非常に良い提案だと考えております。町内には、2つの特別養護老人ホームと2つの老人保健施設があります。

現在、新型コロナウイルス感染症の影響で、施設訪問ができない状況でもあります。コロナ禍

になる以前は、さまざまな団体や個人の方の訪問があり、お年寄りの方も楽しく交流などをされていたと思います。

その中で、静岡県ボランティア協会が各市町の社会福祉協議会と協力、実施しているボランティアの体験プログラム「サマーショートボランティア」という活動があります。このプログラムは、中学生以上を対象に、事前研修等を経て夏休み期間にある程度の日数、施設での活動を行うものであります。

この度の提案である、小学生、中学生、高校生が一緒になって、老人ホーム等の福祉施設に向くことについては、受入れ先の施設及び各学校との日程の他、さまざま調整が必要となります。先ほど紹介しましたサマーショートボランティア活動のように夏休み中に実施していくことが現実的であると考えております。

社会福祉協議会からは、小山高生と福祉施設と一緒に企画してみたいとの意向も聞いておりますので、中学生と高校生を対象に、社会福祉協議会と連携して協議していければ良いのではと考えております。この度の提案のように、小中学生と小山高生が交流することで、小中学生は小山高生から多くの刺激を受けることができ、小山高生は先輩としての自覚が促され、取組の目的や方法をより深く考える場となることと思います。

これは小山高生の学びの場が校外へ伸びていくことを意味し、学びの文化的な環境をより良いものにしていくことになると思います。町では、このような提案を活かしながら、地域が子ども達を育て、その人達がやがてより良い地域を担っていくまちづくりを目指していきたいと考えております。

私からは以上であります。

○議長（澤岡汐里香君） 答弁を求めます。

○企画総務部長（小野一彦君） 次に、小山町の動画を作成することについてであります。

町では、平成30年1月から広報おやまに、AR動画を埋め込んでおり、この動画はユーチューブでも視聴できるようにしてあります。令和元年12月には小山高校生のインターンシップの際に、高校生にも動画撮影を手伝っていただきました。

また、情報発信事業としましては、デジタルマーケティング事業というものを実施しております。これは、最新の8Kカメラ、それからドローン等により撮影をしました本町を紹介する3分間の映像を制作し、外国人でも直感的に理解できる動画として、ユーチューブから世界に発信をしております。現在の再生回数は625万回となっております。

杉山議員ご提案のとおり生徒会と小太郎君が中心となって、小山町の動画を作成することで、学生の発信力の育成や本町への関心度向上につながると考えますので、今後、インターンシップ等の機会を活用し協働で動画を作成することがございましたら、ご協力よろしく願いいたします。

次に、小山町に質問箱を設置することについてであります。

町では、まちづくりへの町民参加の推進と、意見等の町政への反映を図るため、町民からの町政に対する意見、及び提案を広く受け付ける町長への手紙事業を実施しております。令和2年度には19件のご意見を頂きました。

また、町のホームページのお問い合わせフォームや、公式LINEからも町内外から広くご意見を頂いております。

本年度は、コロナ禍において大きく地域活動が制限されましたことから、区長様と町長との意見交換の機会が著しく失われ、直接意見交換する場面を各小学校区ごとに実施しております。

杉山議員ご提案の小中学生を中心とした幅広い世代の方から質問を募集し、小山高生が高校生なりの視線で回答することにつきましては、大変有意義なことであると思います。

まずは小中学校の児童、生徒の皆様が町が実施している各種事業について、それぞれ学んで頂き、その後、頂いた質問に小山高生が回答し、その回答に対して町が意見をすることで、本町全体の教育を更に向上させることができるのではと考えております。

この取組を小山高校の授業のカリキュラムにおいて実施して頂くことができれば最善ではないかと考えております。

以上であります。

○議長（澤岡汐里香君） 再質問はありませんか。9番 杉山 楓君。

○9番（杉山 楓君） 再質問をします。

答弁の中で、中高生を対象に、社会福祉協議会と連携して協議していくという話がありましたが、具体的にどのようなことをしていこうとお考えですか。

以上です。

○議長（澤岡汐里香君） 答弁を求めます。

○教育次長（長田忠典君） 杉山楓議員の再質問にお答えいたします。

老人ホームに出向いてお年寄りの方と交流することについては、町内の中学生が年間を通して町の行事などへボランティア活動に積極的に取り組んでいることから、先ほど紹介しましたように、現在あるサマーショートボランティアを活用して中学生と高校生と一緒に参加して、施設に出向くことがまずは始めるきっかけになるのではないかと考えたところです。

ただし現在は、新型コロナ感染症拡大防止により施設に出向いての活動は非常に困難であります。町の社会福祉協議会からは小山高生の皆さんと福祉施設と一緒にオンライン等による交流事業を企画してみたいという事を聞いております。従いまして町と社会福祉協議会と小山高校と連携して進めていきたいと回答したところであります。

以上であります。

○議長（澤岡汐里香君） 再質問はありませんか。

○8番（杉山 華君） 以上をもちまして、私達の一般質問を終了します。ありがとうございました。

○議長（澤岡汐里香君） これで一般質問を終わります。

ここで、議長の私から皆さんへ御挨拶を申し上げます。

今回の高校生議会でのたくさんの提案を聞き、小山高生、小山町議員の方々の話し合いを通して、更に小山町が発展していくのだろうと感じていました。

後輩の発言をしている姿を見て、今後も小山高校を任せられる、そう感じました。自分自身の生徒会長としての仕事は最後になります。高校生議会では3年間の小山町をより良くするという話し合いの貴重な体験、そして、議長と言う他の人が経験できないことをやり遂げることが出来ました。

また、たくさんの行事で多くの仲間や先生方、そして地域の方々に支えられた3年間でした。この経験を大切にし、これから先も頑張りたいと思います。

本当にありがとうございました。

(一同拍手)

○議長（澤岡汐里香君） 以上で、本日の日程は全部終了しました。

これをもちまして、令和3年小山町高校生議会を閉会します。

午後2時00分 閉会

○議会事務局長（後藤喜昭君） 御起立ください。お疲れ様でした。御着席ください。

○総務課長（池田 馨君） 皆様、お疲れ様でした。

引き続きまして、ただいまの高校生議会につきまして、4人の方から講評をいただきたいと思っています。

初めに、小山町長 池谷晴一が申し上げます。

○町長（池谷晴一君） 小山高校生の皆様、そして町議会議員の皆様、本日は高校生議会へのご参加、大変ありがとうございました。そして澤岡議長様には、スムーズに会議を進行していただき誠にありがとうございました。ご苦労様でした。

さてこの高校生議会でございますけれども、平成28年から始まりまして本年で6回目と言う事になりました。この議会の趣旨でございますけれども、高校生の皆様に小山町について普段感じている疑問点、或いはこうなればいいなと言うようなことを、一般質問と言う形で町にぶつけ、政治そして町政に関心を持っていただくと言う事、そして我々町の側も皆様から町政に関わります様々な点について、ご指摘或いはご提言をいただき町政執行の参考にしていくと言う事でございます。

過去には小山高校生の質問によりまして、足柄ふれあい公園のバーベキューガーデン、或いは金太郎スタンプなどが実現をいたしまして、本年は町から遠距離の大学に通う大学生に対する遠距離通学費助成制度も高校生の提案によって実現をしたという所でございます。

本日の会議も、皆様の視点で町の情報発信、そして知名度の向上、あるいは福祉活動、農業体験、そして地域と学校との連携促進などの町の課題に関わります様々な質問をいただきました。

町といたしまして、今後の町政執行の参考にさせていただきたいというふうに思います。

また、皆様には選挙権年齢が18歳に引き下げられましたが、政治に参画すると言う事がどういうことなのか、具体的にお分かりいただけたのではないかというふうに思います。大変有意義な体験ができたのではないかなというふうにも感じているところでございます。

最後になりますが、本日ご参会いただきました皆様、そして本議会実現のために企画運営等ご尽力いただきました皆様に熱く御礼を申し上げ講評に変えさせていただきます。

本日は大変ご苦勞様でした。また、ありがとうございました。

○総務課長（池田 馨君） 次に、小山町議会議員 遠藤豪様、お願いいたします。

○議長（遠藤 豪君） 高校生議員の皆様、そして、議長を務められた澤岡様、大変にお疲れさまでございました。

現職の議員として、二三皆さんにお話をさせていただきたいと思います。

全体に今日のご質問を聞いておまして、皆さんが小山町を如何に愛してくださっているかという事、大変心強く感じております。その中で、やはり町の発信力が少し弱いんじゃないかのご指摘が何点かご質問の中にごございました。この点については、町当局、私ども議員も大いに反省してこれから発信力を務めていきたいなど、今、いわゆる若い方が使っておりますSNSであるとか、認知度向上であるとか、それからアピールの仕方の良し悪しもあるかと思っておりますので、この点については非常に勉強になったところでございます。

それからもう1点気がつきましたのは、高校生の皆さんが福祉の関係や、地域とのかかわりに、非常に深い考えを持っていただいていると言う事に関して、これまた関心しているところでございます。どこかの知事さんが農業の関係で、御殿場小山にはコシヒカリしかないとの発言をされておりましたが、皆様の今日の発言を聞きますと農業体験を地域の人々と関わりを持ってやりたいとお話もお伺いいたしまして、大変心強く思っているところで、この北駿地域がお米だけでなくいろんなものがあるんだよと言うアピールも必要なのかなとこんな風に感じたところでございます。

いずれにいたしましても、皆様方の今後のご活躍を是非御祈念をさせていただきたいと思えます。それから是非今日の高中生議会での経験を家族とかお友達、友人達にそういう周りの人にも話を広めて欲しいなと考えております。

それから選挙権がすでにご案内かと思えますけれども、18歳へと引き下げられております。ここにいる方々はあと数年で選挙権、中には持っておられる方もおられるかもしれませんが、選挙を経験された方がいられるのではないかと思います。

高校生議会は、1つは政治への関心、或いは若者の政治離れということがかねてから指摘されている中で、理解を深めていただくと言うのも目的の1つかなというふうに考えております。特に地方行政と言うのは、国会と違まして決して難しいものではないというふうに私どもは考えていますので今後も積極的に社会参加を心掛けて頂けたらありがたいと思っています。そして

高校生の皆さんが何より健康に心掛け、勉強或いはスポーツそして自分の夢に向かってより一層自分を磨き、高校生活を十分なものであるというふうに考えて送っていただきたいなどこのように考えております。

終わりに本日出席の当局の皆様や高校の先生方、議員の皆様に対しまして、当議会の開催にご尽力いただきましたことを心から感謝申し上げて私の講評とさせていただきます。

本日は大変御苦勞様でございました。

○総務課長（池田 馨君） 次に、小山町教育長 高橋正彦が申し上げます。

○教育長（高橋正彦君） 小山高校生の皆様、今日は本当にお疲れ様でした。

私は今日皆さんの提案、質問を聞いて素晴らしいなと思ったことが3つあります。

一つ目は、若い世代高校生の目線でいろいろな問題を考えている事です。今の高校生の見かた、考え方、若者の考え方がよく伝わってきました。これは皆さんが自分の身近な問題や日頃思っていることから今日の質問を考えているという事です。地に足が着いた質問が多かったと思います。特に皆さんにとってはSNSの活用が普段の生活の一部になっているのだと改めて思いました。本町でも、SNSについて取り組んでいます、まだ活用の余地があり広げていく必要を感じました。

二つ目は、皆さんが小山町の良さや小山町民とのつながりを大切にしていこうとしていることです。駅に手作りの物を置くこと、その他、小山町の動画を作成すること、農業体験、子供たちの交流等、皆さんが小山高校のあるこの小山町とのつながりを大事に思ってくれているのだと改めて思いました。私たち町民も小山高校の事をとても誇りに思っています。また、コロナ感染症が流行する前には、町の行事にいろんな形で参加をしてくれました。いつも楽しみに思っていました。これからも小山町との良い関係を続けていって欲しいと思います。

三つ目は、ボランティア的な発想です。質問ではリサイクル活動や募金のことが挙げられていましたが、この質問だけでなく他のいくつかの質問の中に含まれていたのは、町が何かをやってくれることを期待するという事だけでなく、町のために自分たちのできることをやっていこうという姿勢です。民主主義の成熟のためにこれから寛容さとボランティア精神が必要であるということが言われています。当然町は町民のためにできる限りの施策を考え実行しています。しかし、町のために自分たちができることは何かを考え、自分たちの力でやってみようとする気持ちはとても大切な構えであると思います。

以上皆さんからの質問から感じたことです。

併せまして、最近若者の政治離れや10代の投票率の低下が話題になります。私は若者が町や国全体の事を自分事として捉え、当事者意識を持って考えていくことがこの町や国を良くしていくことに直接つながると考えています。今回の皆さんの質問には、様々な社会の問題を自分事として考えていること、当事者意識を持って当たっていることを強く感じました。これからも社会や政治に関心を持ち、より良い考えの持てる主権者として学んでいって欲しいと思っています。

今日の皆さんの姿に大きな期待を持つことが出来ました。

以上で私の講評とさせていただきます。ありがとうございます。

○総務課長（池田 馨君） 最後に、県立小山高等学校副校長 芹澤利弘様、お願いいたします。

○小山高等学校副校長（芹澤利弘君） まずは高校生議員の皆さん、議長さん、お疲れ様でした。大変すばらしい会となったことを非常にうれしく思います。

そして今回ご多用の中、また、コロナ禍の中、このような貴重な体験の場を設けてくださった小山町の皆様方に感謝を申し上げます。特に、議会事務局の皆様には、準備から本番に至るまで大変お手数をおかけいたしました。皆様の温かい御支援のおかげで、本日、生徒達は立派に役目を果たすことができたと思っております。

本校は、昭和60年の開校以来、常に地域とともに歩んでまいりました。そしてこれまでの小山町における教育支援、小山高校による地域貢献が形となり、今年、小山町と小山高校の連携協定が締結されました。ありがとうございました。

本校には、今年で6回目を迎える役場における1年生全員のインターンシップをはじめ、多くの地域に密着した行事や取組があります。地域や地域の人々との関わりの中で、生徒が視野を広げ、自らを大きく成長させていけることが、本校の自慢の一つです。そして、将来はいろいろな形で地域に貢献できる人材となれるよう、学校としても大いに力を入れているところです。

今年で6回目となる高校生議会は、まさに小山高校を代表する看板の行事であると思っております。学校の中だけでは学ぶことができない地方行政というものについて、関心を持って主体的に学ぶことができたのではないかと思っております。ぜひ、今回限りだけではなく、この貴重な経験を活かして、今後も政治、行政を身近なものとして捉え、興味関心を持ち続けていってほしいと思っております。

今回、情報発信、小山町の認知度向上、福祉活動、教育の質向上と、身近なテーマを取り上げ、自分事として、高校生らしい率直な意見を堂々と述べることができました。特に、昨年は1年生として先輩達の姿を見てきた2年生が、たくましい成長を遂げた姿は本当にすばらしいと思います。

本校の教育目標は、開校以来、いかなる時代にもたくましく生き抜ける人間の育成にあります。先行き不透明のコロナ禍にある今だからこそ、この目標の意味をよくかみしめて、さらにこの先の時代をたくましく生き抜ける小山高生であってほしいと期待しています。小山町の皆様には、今後とも変わらぬ本校への御支援をよろしくお願いいたします。

以上で、講評を終了させていただきます。

○総務課長（池田 馨君） どうもありがとうございました。

以上をもちまして、講評を終了いたします。

午後2時17分 終了